

【総合的な学習の時間】 第9回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 リサーチクエストについて

2. 本時の概要

本時は、2026年度中学2年生の「総合的な学習の時間」における第9回「リサーチクエスト(RQ)について」の授業である。

中学2年生の探究活動では、社会課題の解決に向けたポスター作成と外部コンクールへの提出を目指している。現在は、探究の「計画部分」を固めるフェーズにあり、リサーチクエスト(RQ)や仮説の設定、検証方法の立案に取り組んでいる。これらのプロセスを体系的にまとめる「探究計画書兼報告書」の作成は、秋の報告会やその後の調査・分析の質を左右する極めて重要な工程である。

本時の活動において特に重視しているのは、「学びのサイクルの循環」と「問いの深化」の二つである。日々の学びを振り返り、次の行動に繋げる自律的な学習姿勢(メタ認知)を養うとともに、単なる検索では答えが出ない「本質的な問い」を自ら立てる力は、論理的な探究を推進する上での核となる。

具体的には、まず「LIFEログ」を活用し、ループリックのレベル3(変化に気づき、次につなげる)を意識した振り返りを行う。次に、RQが「調べればすぐに答えが出る問い」ではなく、探究を通じて何を明らかにしたいかを示す「すぐに答えが出ない問い」であることを理解する。その上で、対象(どこ・だれ・何・いつ)を具体化しながら問いを深め、チーム内で「RefNavi」を用いて文献情報を共有・整理していく。

これらの活動を通して、自身の学びを主体的にコントロールし、9月の計画報告会に向けてチームで協力して論理的な探究の骨組みを構築しようとする意欲を高めるため、本時を設定した。

3. 本時の目標

- **振り返りを通じた自律的学習の促進:** 「LIFEログ」が日々の学びを駆動するための振り返りであることを理解し、ループリック(レベル1～3)を指標として自身の学びの変化や次への行動を客観的に記録することで、主体的に学習サイクルを回すことができる。
- **リサーチクエストの理解と設定:** RQの定義と、問いが「広いものから具体的なものへ」と深まるステップを理解し、自身の興味・関心を検証可能な具体的なリサーチクエストへと昇華させ、探究計画書に論理的に記述できる。
- **ICTを活用した情報共有と協働姿勢の育成:** 「RefNavi」のカスタムタグ機能を活用して、個人で収集した文献情報をチームで適切に共有・管理し、多角的な視点から問いや仮説をブラッシュアップしようとする協働的な態度を養う。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料：
 - 授業スライド 第9回
- 使用教材(副教材)：
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 生徒用配布プリント：
 - スクールタクト課題『LIFEログ』(デジタル学習ツール上で配信)
 - 探究ノート(デジタルファイル配信)
 - 探究計画書兼報告書(デジタルファイル配信)

5. 本時の展開(100分:50分×2コマ / 中間休憩10分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
1分	1. 本時の学習の流れを把握する。 (1)LIFEログ、(2)リサーチクエストンについての二つの活動内容を確認する。	スライドを提示し、本時の時間配分を明示する。
4分	2. LIFEログの意義とループリックを理解する。 「学びのサイクル」を駆動する役割と、自己評価の3段階基準(レベル1～3)を把握する。	スライドを用い、単なる事実の記録ではなく、変化に気づき次につなげる「レベル3」の記述を目指すよう強調する。
10分	3. LIFEログへの記入と自己評価を行う。 教科学習、探究、諸活動の1週間を振り返り、内容を象徴するタイトルを付けてスクールタクトに入力する。	自身の成長を客観的に見つめ直すよう促し、必要に応じて記述内容への助言を行う。
5分	4. 探究計画書の構成とRQの重要性を学ぶ。 9月の報告会に向けた計画書の全体像を確認し、「実態の把握」と「原因の解明」という情報収集の二つの視点を習得する。	医療の診察を例に、適切な情報収集が正しい診断(RQ・仮説の設定)に不可欠であることを説明する。

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
----	------	---------------

30分	5. 自身の探究テーマについて問いの具体化を行う。 探究ノートを活用し、文献情報を『RefNavi』に登録・共有しながら、広い問いを具体的・本質的なリサーチクエスションへと深める。	「調べればすぐ答えが出る問い」を避け、対象(どこ・だれ・何・いつ)を明確にした「すぐに答えが出ない問い」を立てるよう指導する。
-----	---	--

【2時限目】

50分	6. チームおよび個人で探究活動を推進する。 収集した文献の整理・分析を進め、チームで協力して「探究計画書兼報告書」の(1)～(4)の項目をブラッシュアップする。	各教室の担当教員は机間指導を行い、生徒が立てたRQが検証可能な形になっているか、適宜フィードバックを行う。 チーム内での情報共有が円滑に行われているか確認し、主体的な調査を支援する。
-----	--	---